

困ったときは 日教組香川

フリーダイヤル 0120-275-925

日教組香川

2015.12



発行所 日教組香川教職員組合
〒760-0008 高松市中野町15-24 佐藤ビル1F

TEL 087-802-1640
FAX 087-802-1642
URL <http://www.jtu-k.com/>
E-mail jtu-kagw@triton.ocn.ne.jp

発行人 嶋村大伸
毎月10日発行

どなたもどうぞお入りください

日教組香川



11月21、22日、長野県で、第67回全国人権・同和教育研究大会が開催されました。

全体会の冒頭、主催者である全国人権教育研究協議会の森原成壽代表理事から、『差別の現実から深く学ぶ』という原則を大切に、事実と実践をもとにした『生活を高め、未来を保障する教育』の営みを活発に討論、交流してほしいとあいさつがありました。なお、日教組の岡島真砂樹書記次長が来賓として紹介されました。日教組香川からも組合員が参加しました。以下組合員の報告です。

私は、特別分科会第1講、斎藤洋一さんの「信州の部落の歴史を取り戻す闘いの途上で」を拝聴しました。それは長野の部落史研究の現状を知りたかったからです。東日本でも長野は群馬・栃木などと並んで被差別部落の

人口が多い地域だということを知っていたので、西日本との違いについて知りたかったということもあります。

結論からいうと、それは地域が違っても同じでした。中世から近世にかけての被差別部落の人々、その後解放令から近代の差別の悲惨さ。

そんな中で、心に残ったのは島崎藤村の『破戒』でした。この文学作品の舞台は長野ですが、そのあからさまな差別表現は目を疑うばかりです。これを部落史研究の資料として位置づけ、当時の人々の考え方を探ることに意義はあると思いますが、斎藤さんもおっしゃっていたように、これを部落問題を考える最初の出会いにしては危険すぎるものだと思います。

ネットはもちろん、昨今は平然とヘイトクライムが横行する時代です。改めて科学的認識の大切さを考えさせられました。

善光寺(ぜんこうじ)は、長野県長野市元善町にある無宗派の単立寺院。日本最古と伝わる一光三尊阿彌陀如来を本尊とし、善光寺聖の勸進や出開帳などによって、江戸時代末には、「一生に一度は善光寺詣り」と言われるようになった。

特徴として、日本において仏教が諸宗派に分かれる以前からの寺院であることから、宗派の別なく宿願が可能な霊場と位置づけられている。また女人禁制があった旧来の仏教の中では稀な女性の救済が挙げられる。(ウィキペディアより)

Photo by Takeshi Okamoto

11. 13県教委交渉

県 教 委 「多忙化解消は教員の意識改革で」 日教組香川 「意識改革だけでは無理、制度の改革を」

11月13日(金)、日教組香川は、香川県教育委員会と交渉を行いました。参加は嶋村中央執行委員長、高木副中央執行委員長、岡本高松地区教組委員長、松下特別執行委員の4人でした。また、県教委からは西原教育長や各課長、管理主事が出席しました。以下は、県教委との交渉経過の概略です。(□日教組香川 ○県教委)

1 多忙化解消

- 県教委は、平成22年度に実施した公立小・中学校教員の勤務実態調査において、平成18年度の文部科学省が実施した教員勤務実態調査の教員の一ヶ月当たりの平均残業時間約42時間と同様の傾向であると言っているが、現在の超過勤務時間をどのように把握しているのか。
- 香川の教員の小・中学校の勤務実態についても基本的には、全国同様と考えている。
- 「教員業務改善プラン」から4年目、成果があがっていると知っているが、具体的に超過勤務時間は何時間減少しているのか。
- 数値として把握しているものではない。
- 勤務実態調査をする予定はないのか。
- ない。
- 「教員業務改善プラン」はいつまでするのか。
- 今年度末を目途に考えている。
- 来年度からの改善プランはあるのか。
- 検討中である。
- 日教組香川は、教員が本来すべき業務以外の業務を、学校事務職員を増員し業務を移行することで、教員の多忙化解消を考えている。学校事務の加配を考えているのか。
- 県単独による加配は、今はない。
- 学校現場では、大変多忙を極めている。教職員の実態把握をきちんと行い、具体的な多忙化解消プログラムを作成していただきたい。
- 研修等の精進・縮減にしっかり取り組んできた。意識改革にも目を向ける必要がある。
- 教職員の意識改革も必要だが、それをするにも制度や枠組みの改革が必要である。教職員の意識改革だけでは、改善はできない。

2 ストレスチェックの実施



県教育委員会

- 実施主体である市町の実施計画を県としては把握しているのか。
- 市町においても未だ固まっていないと考える。

- 県費教職員の中で、ストレスチェックを受けた者と受けなかった者が出てきてもいいのか。
- 市町において前向きに検討するようお願いしている。



日教組香川

3 性的マイノリティの子どもたちへのサポート

- 具体的にどのような働きかけをしているのか。
 - 平成24年にリーフレットを作成し全教職員に配付し、毎年研修を行っている。
 - かつて県教委が発行した「人権教育ハンドブック」は、全教職員が携帯しておくようにと指導されている。今回も現場に強く指導してほしい。また、研修会に参加した人権・同和教育主任が、学校に戻ってきちんと広めることが大切であると思うがいかがか。
 - 当事者に対して、希望に沿った対応をしていきたい。カミングアウトできない子どももいると考えている。大切なのは普段から子どもたちとしっかり関わり、一人ひとりを見つめていくことである。
 - 相談窓口が子どもたちに分かるように周知の工夫をお願いしたい。
- ## 4 教育長から
- (教育長) 子どもと向き合う時間を増やしたいという点では県教委も同じ考えで、調査を減らすなどしてきた。また、業務改善の優れた実践も紹介している。それぞれの学校の文化や業務の仕方が違うので、ぜひ業務改善の事例をつくってほしい。「チーム」学校のような体制作りをするにも県単独ではなかなかできない。文部科学省への要望とともに、引き続き対応をしていきたい。

総括

日教組香川は、今回は上記の3つを重点項目として交渉に臨みました。

「ストレスチェックの実施」と「性的マイノリティの子どもたちへのサポート」に関しては県教委としても引き続き対応をしていくと確認できました。

しかし、「多忙化解消」に関しては、その解消を『教職員の意識改革』に集約し、制度や枠組みの改善を行おうとする道筋は見えてきません。

しかも今回、県教委は人事委員会報告に関して、一切言及しない姿勢を示したことに関して、明らかに人事委員会報告の軽視であると考えます。このような姿勢を示す県教委に対して、人事委員会報告を尊重するよう、あらゆる方面から取り組みを強化していきます。

11.17教職員定数改善を求める中央要請行動 子どもたち一人ひとりと向きあうために

11月17日13時より、衆議院第一議員会館1階多目的ホールにおいて、全国各地から結集し、意思統一集会が行われました。加藤良輔日教組委員長からの本部あいさつに始まり、3人の日本民主教育政治連盟（略称：日政連）議員である那谷屋正義参議院議員、水岡俊一参議院議員、横路孝弘衆議院議員から財務省案に反対する激励のご挨拶をいただきました。

続いて14時15分より、地元選出国會議員要請を各県ごとに行いました。日教組香川の参加者は、玉木雄一郎衆議院議員、小川淳也衆議院議員に直接面会し、教職員定数改善にご理解をいただきました。

大変お忙しい中、時間の調整をしていただき、有意義な時間が持てま

した。

16時45分からは場所を星稷会館に移し、子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会（略称：子ども支援連絡会）主催による集会が行われました。集会に先立ち、「教育フォーラム」として、マルチタレントである大東めぐみさんの「共に考え、共に育てる」と題した講演がありました。

さらに18時15分より「子供たち一人一人に向き合うための教職員定数の改善を求める全国集会」が開催され、PTA関係者を含め、全体で約400人が参加しました。

来賓は、馳浩文科大臣、堂故茂文科大臣政務官、自民党・亀岡偉民衆議院議員、民主党・中川正春衆議院議員、公明党・浮島智子衆議院議員、



那谷屋正義参議院議員
(元神奈川県小学校教員)

社民党・吉川元衆議院議員、生活の党と山本太郎となかまたち・玉城デニー衆議院議員が出席、挨拶されました。（議員本人が35人、代理が73人、計108人が参加されました。）

最後に、「子供たち一人一人に向き合うための教職員定数改善計画等を求める」アピールを採択し、それを基に教育関係団体として省庁、国會議員など各方面に要望活動を行うことを確認して、集会を終えました。



東京日比谷公園野外音楽堂に全国から約4500人が集まり、『辺野古に基地は造らせない大集会』が開かれました。この集会は「止めよう！辺野古埋め立て国会包囲実行委員会」が主催し、「9条壊すな！戦争させない総がかり行動実行委員会」が協力した大集会です。会場はぎっしり満員で、中に入れぬ人も多く、会場の外からも「辺野古に基地は造らせない」と反対の声をあげていました。私たち日教組香川の仲間も自主参加しました。

午後1時30分、集会が始まり、まず沖縄から3人の方の報告がありました。へり基地反対協の安次富浩さんは「沖縄の民意を生かすことが、民主的な政治ではないのか」と安倍政権の政治姿勢を批判。島ぐるみ会議共同代表の高里鈴代さんは、辺野

11.29辺野古に基地は造らせない大集会 辺野古に基地はいらない

古問題の解決は日本政府次第とする米政府に対して、「米国自身も当事者だ」と訴えました。連合沖縄会長の大城紀夫さんは、「地方自治と人権を押しつぶそうとしている安倍政権の危険性」を訴えました。

続いて、学者文化人として、田中宏さん（一橋大名誉教授）は、「選挙でも幾度となく示された沖縄の民意を無視することは国連の条約に違反している」と指摘。枝元なほみさん（料理研究家）は、「だれかの犠牲の上に成り立つ経済」や「武器があればなんとかなる」という考えではなく、「命を守ることを根本に置くことの重要性」を述べられました。



リレートークでは、総がかり行動実行委員会の3団体をはじめ、平和フォーラム、新聞労連、東京沖縄県人会などが、それぞれに政府の基地建設強行を批判し、沖縄と連帯して政府に対する抗議を引き続き行っていくことを訴えました。

集会後、参加者はエイサー隊を先頭に銀座の街をデモ行進し、街並みの人びとに「辺野古新基地建設反対」「安倍政権は地方自治を尊重せよ」と呼びかけました。

訂正とおわび

日教組香川11月号6面の見出し

「多様化」とありましたが
「多忙化」のあやまりでした。
訂正しておわびします。

教え子を再び

沖縄辺野古・普天間フィールドワーク

日本の中に確固と存在するアメリカを感じて

嶋村太伸(日教組香川委員長)

11月27日、日教組代表者会議の後、「辺野古・普天間フィールド・ワークに参加しました。

最初に、辺野古のキャンプシュワブ第一ゲート前へ。なかなか報道されませんが、第一ゲート前では、連日座り込みの取り組みがされていて、今回はその座り込み団の人たちと一緒に、第一ゲート前でシュプレヒコールをあげました。

その後、嘉数高台から普天間基地の見学。密集した街並の中に滑走路は歴然と存在し、あのオスプレイは留まっていました。ガイド役をしていただいた沖縄県



嘉数高台から普天間基地



キャンプシュワブ第1ゲート前

教組の山本委員長から、あらためて沖縄戦で日本軍が国民を守らなかった歴史も学び直しました。

米軍基地ゲート前も、基地の中のオスプレイも、道すがらのフェンスの向こうの家並みも、そこは、まさに2年間住んでいたアメリカ、サンディエゴの風景そのものでした。日本の中に、確固と存在するアメリカ。沖縄の人たちは、そこで暮らしています。戦後はまだ終わっていません。

「教え子を再び戦場に送らない」ための闘いはまだまだ続きます。

「育鵬社」教科書の採択に反対の声を！

「香川の子どもと教科書ネット」代表 松井雅子

アメリカの言いなりに戦争に加担できる安全保障関連法が作られた。次は、命令のままに戦場に行き、人殺しができる若者を育てねばならない。そこで狙われるのが「教育」そして「教科書」。

「平和とは戦争の無い事」と、他社の中学校公民教科書には書いてあるが、「戦争」を「積極的平和」と宣伝する安倍首相と「日本会議」系議員たちが、必死に広めようとしている「育鵬社」公民教科書には、「憲法は国民をしぼるもの」「基本的人権の尊重よりも、社会貢献、国防の義務、徴兵制度は必要」とすりこませいく。その結果、かつての軍国少年、少女のように、喜んで戦場へ行く若者たちが育てられていく。

2011年、この教科書が県立高松北中学校に採択された。これを放置するわけにはいかない。「平和憲法を生かす香川県民の会」の有志による支援を受けて、超党派による「香川の子どもと教科書ネット」を立ち上げた。今夏、私たちの必死の要請行動もむなしく、再度県立高松北中学校に、「育鵬社」歴史、公民教科書が採択された。

西原教育長は、「社会貢献について書かれてあるから、そして、親から特に反対の声が上がりなかつたから。」とテレビで釈明答弁をしていた。この教科書に決めたのは、調査員会に出席した現場の教師たちと、教育委員たちである。教師たちは、なぜこれを選んだ

戦場に送らない！！

のか。親たちはなぜ反対しなかったのか。学校現場の実態を知りたい。その上で、共に反対の声をあげていきたい。

1月24日(日)1時30分～国分寺北部コミュニティーセンター(端岡駅下車)(国分寺北部小学校側)で、第26回「香川の子どもと教科書ネット」の会議を開きます。私たちの仲間である元高校社会科教師が、「育鵬社」の「憲法」の単元の問題点をレポート発表します。教科書問題に興味関心をもたれる教師の皆さん、お待ちしております。



プロフィール

- 1941年生まれ、(第2次世界大戦が始まった年)
(国民学校での教科書の墨塗りの経験なし)
- 2001年 東京都八王子市立小学校教師定年退職
(「扶桑社」教科書が出版され、教科書問題に関心を持つ)
- 2008年 香川県に転居

12月14日(月)、第23回部落解放共闘会議総会の後、松井さんが記念講演会をされます。
演題【香川県の子どもたちの教科書はどうなっているの？—育鵬社・歴史・公民教科書に反対の声をあげていこう】

大先輩から現場教職員への伝言 戦前・戦中の教育(3)

今こそ「教え子を再び送らないための民主教育」を

香川県退職教職員協議会 会長 大林浅吉

1941年4月1日、在張家口日本総領事館で「張北日本国民学校訓導に任ず、月俸五十五円」の辞令を受け取りました。張北は張家口から北へ約80km、外長城線の北蒙古高原の入口で約1km四方の城壁をめぐらし、人口約1万人、住民のほとんどが漢民族で、1939年にできた蒙古政府の察哈爾盟公署(県庁)があり、日本軍1ヶ中隊が駐屯していました。日本人は約600人くらいで蒙古政府の役人や土建業者・商人等で、張北日本国民学校の生徒は当時28人、校長が1年生と5・6年生、私が2・3・4年生を担当しました。毎日の朝礼では日の丸を掲げ、宮城遥拝・神宮遥拝をしました。教科書は内地と同じものを使っていました。子どもたちは元気に全学年がいっしょになって仲よく、時にはケンカもしながら遊んでいました。朝鮮の子どもも3人ほどいましたが、わけへだてなく遊んでいました。張北の町には中国人の小学校と師範学校、蒙古人の中学校と女学校があり、日本人の教員が2、3人配置されていましたが、子どもたちの交流はほとんどありませんでした。

12月8日大東亜戦争の開戦は1日ほど遅れて知りました。張北の町には電灯はなくてランプ生活で、学校にはラジオもなく新聞も1日遅れて張家口から送ってきていましたが、開戦の戦果に生徒たちも大いに活

気づき、現地の中国人や蒙古人は日本に対し、一層畏敬の念を持つようになったと思います。

1942年7月、1週間の日程で北京大使館管内の日本人学校教員の中堅教員錬成講習会が北京の皇典講究所で開催され、私も指名されて参加しました。会場は中国の古い寺院のような建物で、伊勢の神宮皇學館から来た人たちが講師で、水をかぶって襦袢をしたり、祝詞の講義などがあり、興亜院や北支開発・北支軍司令部等から講師が来て時局についての講話がありました。この講習会で、「日本精神とは何ぞや、天皇陛下のために喜んで死ぬことである」と悟られました。

海ゆかば水漬くかばね山ゆかば草むすかばね
大君のへにこそ死なめかえりみはせじ

(次号へ続く)



大林浅吉プロフィール

- ・1922年4月生まれ
現在93歳。
- ・1941年
香川師範大陸科卒業後、蒙古張北日本国民学校で教鞭をとる。
- ・1943年1月
丸亀歩兵12連隊に入隊。
- ・1945年8月
上海で終戦、翌年2月無事復員。

徳島県教組から日教組香川への手紙「徳島県教組襲撃事件③」

ヘイトクライムに負けない！ 共生の教育を拓く

11・18徳島県教組襲撃事件第2回控訴審（高松高裁）及び徳島県教組襲撃事件裁判支援報告集会（まなびCAN）に、日教組香川からも参加していただき、ありがとうございました。

まず、京都朝鮮学校事件と徳島事件の襲撃目的の共通性を明らかにし、県庁前街宣の不法行為を示すために、最初に事件動画上映を行いました。

次に、元組合役員の証人尋問です。県庁前ヘイト街宣の場に直接いなかったことを理由に正当な抗議活動だとした徳島地裁不当判決を覆すために、県庁前の喧騒が聞こえたことを証言されました。さらに、Tさんから電話で「自宅街宣すると言っているから気をつけて！」と連絡を受けたという証言もありました。

反対尋問では、なぜ3年間も不調がありながら病院へ行かなかったのが問われました。頭痛や気持ちの落ち込みの症状ぐらいで病院へ行こうとの根拠にはなにくく、手持ちの市販薬でしのぐのが一般的な感覚ではないかとの趣旨を述べられました。更に被告女性からの反対尋問では、拉致問題と結びつけた尋問があり、裁判長からは裁判との関連性がないと却下されました。また、県教組が四国朝鮮初中級学校を支援したのは朝鮮総連への支援ではないかとの尋問には、あくまでも学校への支援だということを述べられました。被告側の尋問は徳島地裁での尋問と重複するものばかりで、原告弁護士から「異議あり」の一声で、裁判官からも「被告側は質問内容を変更するように」という指示が何度もありました。

裁判長は次回口頭弁論を2016年2月15日(月)13:30から予定しています。今後も、控訴審を通じて、裁判官の良識ある判断を何よりも求めていきます。

**徳島県教組襲撃事件（民事）控訴審
第3回口頭弁論**

日時 2016年2月15日(月)
集合12:00 裁判13:30～
場所 高松高裁 高松市丸の内1-36
電話 087-851-1547

裁判報告集会を行いました。

ステージには、裁判闘争横断幕が掲げられ、初披露されました。「ヘイトクライムに負けない！共生の教育を拓く」のスローガンと「いっしょに闘っていきましょう！」の四国朝鮮初中級学校からのメッセージ、京都からのステキなイラストのまわりには、ハングル文字による手書きのメッセージで埋め尽くされています。なお、「四国朝鮮初中級学校オモニ会」のFacebookには解説ビデオが掲載されています。

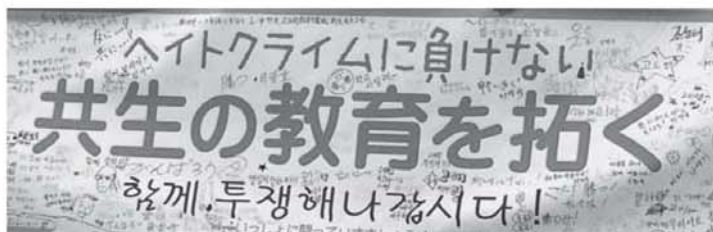
集会冒頭には、今回の裁判の経過について弁護団の篠原弁護士から概略の説明がされました。

次に、徳島大学総合科学部社会学専攻の樋口直人先生から、裁判所に提出した意見書（「在特会による徳島県教組襲撃事件裁判に対する意見書」）についての解説がありました。「徳島大学社会科学研究, No. 29, 2015年12月」に掲載されています。

その中で、在特会は、朝鮮学校攻撃をするため、その口実として募金詐欺をした徳島県教組を襲撃するという事件の本質に迫りました。そして、在特会の行動の共通性は、転倒した因果関係だとして、真の意図は差別的攻撃だと述べられました。徳島県教組などの裁判闘争とカウンター行動によって、在特会の行動は押さえられているけれど、社会的関心が続いている内に何らかの成果を残すべきで、本裁判においても人種差別として判定することによって、足跡を残してほしいと話されました。樋口先生は、この間ずっと地方議会にヘイト規制対策の意見書採択に取り組みされており、徳島県では、9月議会で意見書採択が実現し、現在は徳島市議会での意見書採択をすすめていること、香川県は12月議会での可能性がでてきたとの報告もされました。

さらに弁護団の冨増弁護士から、徳島県教組の四国朝鮮初中級学校への支援が、募金詐欺ではないことを明らかにする図解資料についての説明がありました。徳島県教組は、街頭募金を一切していないこと、朝鮮学校への支援は、連合に申請し、連合から承認された後に、徳島県教組が連合の代理（使者）として四国朝鮮学校に渡したことが法廷で示されたことの報告がされました。また、会場からは、東京、香川、松山からそれぞれ報告や感想がありました。

日教組香川の組合員のみならずも四国朝鮮学校との交流そして人権教育の教材化に徳島県教組といっしょにとりくんでみませんか。12月19日には餅つき大会があります。気軽に学校訪問してみませんか。いっしょに行ってみようという人は徳島県教組（088-633-2929）まで、ご連絡ください。



【お知らせ】

教職員のための「知っ得」講座

(勤務時間・休暇制度 編)

12月19日(土)午後1時より、サンメッセ香川2階会議室でいよいよ開催します。超多忙な学校現場から自分を解放しましょう。日頃から疑問に思っていることを、法律のプロに聞いてみるいい機会です。たくさんの参加をお待ちしています。

プラウド12月例会

「大阪市淀川区LGBT支援事業の視察報告会」

- 日 時：12月20日(日) 13:30~16:30
- 場 所：高松市男女共同参画センター
- 参加費：500円
- 内 容：視察ビデオの上映、視察報告、参加者と話し合い
- お申込：前日までに <http://proud-kagawa.org> または FAX 087-868-3315

教職員共済生協のキャラクターが新しくなりました!



「あ」んしん「む」すぶ き「りん」で「あむりん」です。1539件の応募の中から選ばれました。パンフレットや広報誌「共済だより」、チラシなどに登場します。みなさん、かわいがってやってくださいね!

教職員共済生協の「個別相談会」開催中!

保障の見直しや
資金準備の考え方
などご相談ください

場所：香川県教育会館6階またはご自宅、ご勤務先／日時：お好きな日時で。おひとり様一時間程度。

お申し込みは フリーダイヤル 0120-27-8144 へ

教職員共済生活協同組合 東四国事業所

〒760-0004 高松市西宝町2丁目6-40 香川県教育会館6階

カナリア通信

「人権集会を通して」

秋が深まる頃、人権について学習したり総合的な学習から学んだりした事柄から、内容や方法を考えて人権集会がもたれます。◆保護者が参観できるタイプの発表会形式の本校では、全員が発表者として何かの役を担います。様々な「でこぼこのあるこども」も参加しています。◆今年、ニュース形式で発表し、保護者が見ている発表会に出ることが難しい児童もビデオ場面で参加したり、場面展開の合図を担当したり、参加が可能な方法を編み出していました。◆みんなと同じように自分の役を果たした子も、声の大きさや精神的な安定感を考慮された役を割り振ってもらっていました。◆様々な工夫は、でこぼこのある子や特別支援学級の子だけでなく、大きな声を出すことが苦手な子や緊張しやすい子などにとっても有効な工夫でした。無理にさせるのではなく、それぞれができることから組み立てていました。◆人権集会を通して、それぞれの担任が学級・学年の全ての児童の特性を受け止めようとしていると感じました。◆配慮が「特別なとき」から「いつも」になることを願って・・・